

インプラント治療について (人工歯根)



h サッカー通りみなみ
デンタルオフィス

☎03-6801-5495

〒113-0033 東京都文京区本郷3-12-9

<https://www.minamidental-office.com/>

今回、患者様がインプラント処置を希望されたのは、以下のようなことを望んでらっしゃるからだと思います。

- ・ 自分の歯があったときと同じように食事をしたい。
- ・ 自分の歯があったときと同じように美しい歯でありたい。
- ・ 入れ歯では満足に噛めないし、違和感ががまんできない。
- ・ まわりの健康な歯を傷つけない。

デンタルインプラントは、今までの治療法以上にこれらの希望を満足させることのできる可能性をもった、優れた治療法であると我々は確信しています。しかし、インプラント治療には、このような長所ばかりでなく、手術を行うことによる危険性や、いくつかの短所もあります。私どもは、長所だけでなく、短所についても充分にご理解いただいた上で、インプラント治療をはじめたいと思います。そして、それによって皆様がより満足していただければと願っています。

① デンタルインプラントとは

デンタルインプラントは、その歴史の中でさまざまな素材、形態のものがありますが、今日最も一般的で、最も確実と言われているデンタルインプラント（当医院で行っているタイプ）は、チタン製で歯根型といわれるものです。

インプラント治療とはこのインプラント体と呼ばれるチタンおよびチタン合金でできたネジのような形の人工歯根を、歯が失われた部分の骨の中に埋め込み、骨とインプラント体がしっかりとなじむ期間（骨結合・上顎＝約3ヶ月、下顎＝約2ヶ月）を待ってから、これを歯根として利用して、クラウンなどの上部構造を作っていく治療法です。約10～15年の成功率は約95%だといわれています。





② 従来の治療法の問題点

従来、歯を失ったときの治療法は、入れ歯（取り外し式の義歯）や、ブリッジ（両隣の歯を削って、それを支えにして入れる固定式の義歯）が行われてきました。これらの治療法は、最も一般的な選択肢の一つですが、以下のような不可避な問題をかかえており、使い方やお手入れが適切でないと、周囲の歯の健康を損なうリスクがあります。

- 1) まわりの歯に負担がかかる。
- 2) ブリッジでは、隣りの歯を削らなくてはならない。
- 3) 入れ歯は違和感が大きく、安定しにくい。
- 4) 汚れや細菌がたまりやすい。

③ インプラントの長所

- 1) 周りの歯の負担を増やしません。
- 2) まわりの歯を傷つけずに済みます。
- 3) 違和感が少ない。
- 4) お手入れはご自分の歯とおなじように。

④ インプラントの短所

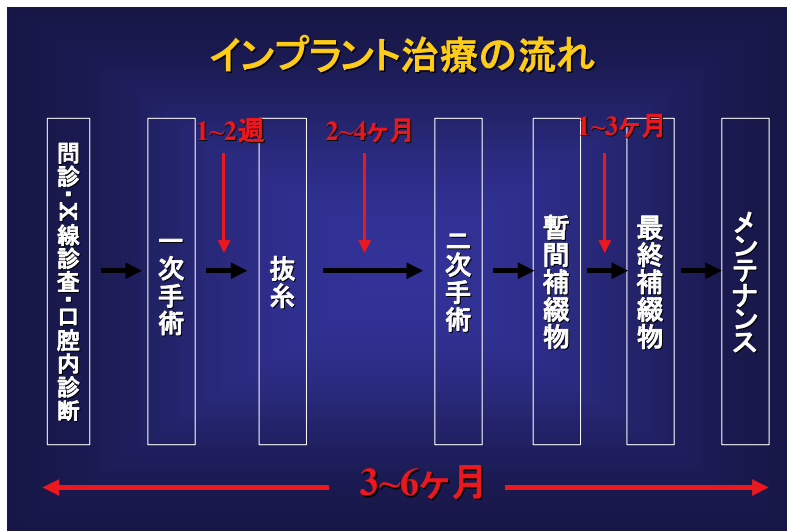
- 1) インプラント治療にはインプラント体を埋め込む手術が必要となります。歯ぐきを切開し、骨に穴を開ける必要があります。
- 2) インプラント治療は、インプラント体と骨が十分なじむのに 2~6 ヶ月かかりますので、治療期間が長くなります。
- 3) 基本的には天然歯と異なるため、メンテナンスなどには注意が必要です。
- 4) 虫歯になることはありませんが、歯槽膿漏になる可能性があります。

⑤ インプラント治療の流れ

- 1) 診査、診断 レントゲン、CT 診査、模型診査、口腔内診査などを行います。
- 2) 1 次手術 （インプラント体をあごの骨の中に埋め込む手術）
日帰りの手術（局所麻酔で通常約 1 時間程度）
腫れは、4・5 日~10 日程度で、1 週間後に抜糸。
- 3) 治癒期間 インプラントが骨になじむ（骨結合）期間。
上顎で約 3 ヶ月、下顎で約 2 ヶ月。

1 カ月おきくらいに状態をチェックします。

- 4) 補綴処置 歯ぐきがきれいに治るように、仮歯などを使って
治りを待ち、最終的なクラウンなどの上ものを作っていきます。



⑥ インプラント治療が出来ない場合は

以下のような全身的、局所的な問題がある場合には、インプラント治療を行えませんが、改善されれば、将来的に出来る場合もあります。

- ・ 心臓疾患、血液疾患、脳血管疾患等、コントロールされていない重度の糖尿病
- ・ 重度の歯周病（適切な治療およびコントロールがなされていないもの）
- ・ 顎の骨の過度の萎縮、骨の量の不足。（骨移植、骨増成で対応できないもの）

なお、喫煙はインプラント周囲組織へ悪影響を及ぼし、インプラント治療の成功率を低下させることが明らかになっています。喫煙される方でインプラントを希望される場合は、禁煙されるか、少なくとも手術の前後の一定期間は禁煙していただく必要があります。

⑦ インプラントの失敗について

インプラント治療がうまく行かない場合は、大きく分けて次の2つの場合があります。

- 1) 初期の失敗～手術でうまく生着しない場合
インプラントが骨になじまない（骨火傷、粗な骨質）
下顎管の損傷や上顎洞への穿孔
難症例における移植骨の感染
喫煙や糖尿病に伴う治癒不全
- 2) 後期の失敗～一度成功したが、何年か使用しているうちにだめになる場合
インプラント周囲炎（歯槽膿漏）
過剰な荷重負担（インプラントに力がかかりすぎる）

1に関しては、**1%以下**の確率でこのようなことが起こると言われています。条件によっては、再度インプラントを埋入する場合もあります。2に関しては、日ごろからきちんとお手入れをして

いただき、定期的なメンテナンスに来ていただければ、それをかなりの確率で予防することができます。

⑧ ケースプレゼンテーション

1) 前歯単独歯欠損 (骨移植併用)



2) 前歯複数歯欠損



3) 臼歯複数歯欠損

